



根本幽峨《琴棋书画図》江戸後期 絹本着色 鳥取県立博物館蔵(安富コレクション)

P.2 **企画展** 令和5年10月7日(土)～11月12日(日)

勾玉の世界

P.3 **テーマ展示** 令和5年10月15日(日)～11月12日(日)

シリーズ：美術をめぐる場をつくるV

赤ちゃんたちのためのアート鑑賞パラダイス

P.4 **企画展** 令和5年11月26日(日)～12月28日(木)

ミュージアムとの創造的対話04 ラーニング/シェアリング

P.5 **企画展** 令和6年2月10日(土)～3月20日(水・祝)

生誕200年 **根本幽峨 NEMOTO Yūga** —近世鳥取画壇の「黄金時代」最後の華—

P.6 [自然] コラム ダイオウイカの「口と舌」

P.7 [人文] コラム 武士は太ると辞任する

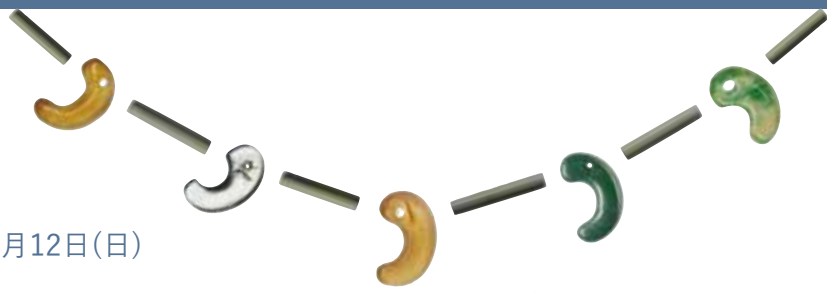
P.8 開催告知 国際シンポジウム「エゾオオカミとタスマニアタイガー」
共同企画展「DRAWING ADDICT!! -ハマる素描」



企画展

勾玉の世界

令和5年10月7日(土)～11月12日(日)



(主催) 勾玉展実行委員会

勾玉は縄文時代のアクセサリーとして生まれました。当初は素材も形もさまざまでしたが、今から2000年以上前の弥生時代中期に定形化を遂げ、その後のスタンダードとなるあの形が生まれました。その後勾玉は古墳時代の終焉と共に、アクセサリーとしての役割を終えます。しかしその後も仏像を飾る荘厳具や祭祀具等として、形や材質そして役割を変えながらも1千数百年にわたり現代まで命脈を保ってきました。

本展ではこうした勾玉が、形や素材のリニューアルを繰り返しながら、各時代の要請に応じてきた歴史を紐解きます。併せて九州から北陸・関東等の東日本で見つかった個性的な勾玉を紹介しながら、古代から現代の人々を魅了してやまない勾玉の魅力を紹介します。

展示構成

(1) 勾玉のルーツ

勾玉のあの形はいつどこで生まれたのでしょうか。縄文時代に生まれた勾玉は、形も不定形であり、滑石等の軟らかい石を素材としたものであるため、あまり美しいとはいえないものが少なくありませんでした。しかし弥生時代中頃には九州北部においてヒスイ製の整形成した勾玉が現れ、その形が後の古墳時代に受け継がれていきました。



メノウ勾玉(左)・碧玉勾玉(右)
米子市上ノ古墳出土(当館蔵)

(2) 形や大きさがさまざまなユニークな勾玉たち

弥生時代中期に定形化を遂げた勾玉ですが、さまざまな大きさのものが現れるほか、古墳時代には材質の多様化が進み、青や緑を基調とした弥生時代の勾玉に比べ、古墳時代になると赤や白、黄色など彩りが一気に華やかとなるほか、一風変わった勾玉も現れるなど多彩な顔ぶれとなりました。



楕形勾玉
鳥取市美和34号墳出土
(鳥取市教育委員会蔵)



重要文化財 子持勾玉
湯梨浜町高辻出土(当館蔵)

(3) アクセサリーとしての勾玉

弥生から古墳時代の人々は、勾玉をどのようなアクセサリーとして身にまっていたのでしょうか。古墳等から出土した勾玉の中から、着装状態が分かる事例や、人物埴輪に表現された勾玉の着装例を通じて、頭飾りや耳飾り、首飾りや腕飾り等さまざまな勾玉の使い方を紹介します。



新羅の婦人用頭飾
韓国梁山夫婦塚出土 (東京国立博物館蔵)
Image:TNM Image Archives

(4) 勾玉の象徴性

勾玉はアクセサリーとしてだけでなく、祭祀で使う専用の勾玉や、容器に納められた勾玉等、神マツリの場で使われることもありました。また銅鏡にあしらわれた勾玉文様や、王の威儀を正した玉杖にあしらわれた勾玉からは、勾玉のもつ象徴的な意味合いがうかがえます。

(5) 勾玉の作り方

勾玉の製作工程やその変遷について、各地の玉作遺跡出土品を通じて紹介します。

(6) 勾玉の永遠性

近世以降、勾玉は愛玩品として持て囃される一方、研究対象ともなり、研究成果も刊行されました。また、近・現代においても勾玉を用いた神事が執り行われる等、勾玉の普遍的な魅力を紹介します。

最後に、縄文時代に勾玉が誕生して以来、数千年にわたる長い歴史の中で、変わらず保ち続けた勾玉の魅力をみなさんも是非、会場でお確かめください。

(学芸課 小 山 浩 和)

- 休館日: 10月23日(月)
- 観覧料: 一般/700円(前売・20名様以上の団体・70歳以上/500円)
※大学生以下・学校教育活動での引率者・障がいのある方・
難病患者の方・要介護者等及びその介護者は無料
- 関連イベント
- ギャラリートーク 10月7日(土)・14日(土)・28日(土)、11月4日(土)
(午前の部)11時～12時、(午後の部)14時～15時 (要観覧料)
- 勾玉づくり 10月8日(日)・15日(日)・29日(日)、11月5日(日)
(午前の部)10時～11時30分、(午後の部)14時～15時30分(要材料費)
※10月5日(木)から電話(0857-26-044)にて申込受付・各定員20名

令和5年度 鳥取県立博物館 美術部門
シリーズ：美術をめぐる場をつくるⅤ

赤ちゃんたちのためのアート鑑賞パラダイス

令和5年10月15日(日)～11月12日(日)



ある日の「一緒にみてみて木曜日」(乳幼児一緒に鑑賞優先デー)の展示室風景

子どもたちが遊びながらアートと出会える場をつくりたい。そのような思いから今秋、乳児・幼児とその保護者にも楽しんでいただける展覧会を開催します。

きっかけは、「みんなでつくる美術館のためのオープンミーティング《子どもと美術館》」。美術館は、小さな子ども連れの方々にとっても、楽しく開かれた場所であるべきです。けれども実際には、静かにしなくてはいけない、ベビーカーを押して子どもと一緒に鑑賞するには展示位置が高すぎるなど、いくつものハードルがあります。ミーティングでは、子どもたちを含むたくさんの方々から、そんな状況を変え「子どもと美術館のしあわせな出会い」を可能にするアイデアやご意見をいただきました。例えば、子どもが泣いてもいい展示室。靴を脱いで親子で床に寝転がれるようなスペースの設



置。子どもたちからは「みんなで大きな絵を描いて飾りたい!」「犬と一緒に映画を見られるような美術館だったら楽しいな」といった声を聞くことができました。

「美術館に来館することで鍛えられる部分がないと、美術館じゃなくなる」という言葉も印象に残っています。「鍛えられる」=「発見や驚き、学びがある」と言い換えられるのかもしれませんが。美術館ユーザーも、美術館としての役割をきちんと果たすことを望んでいるのだと背中を押されたように感じました。今回の展覧会には、あと2年を切った県立美術館の開館へ向けて、乳児・幼児とその保護者のための展覧会の在り方を考える意味もあります。そのため、楽しい場所を目指しながらも、商業施設やアミューズメントパークとは異なる視点が必要です。

会場には、小さな子どもたちが興味を持ちやすいと言われる特徴がある平面作品、立体作品を展示します。また、遊びがアートの入り口となるブースも設けます。そして、会期中には、講師をお迎えしての「赤ちゃんと楽しむ作品鑑賞」や小さな子どもたちがのびのびと表現できるワークショップなどを開催する予定です。

(美術振興課 佐藤 真菜)

■休館日:10月23日(月)

■観覧料:一般/180円(20名様以上の団体/150円)

※大学生以下・70歳以上の方・学校教育活動での引率者・障がいのある方・難病患者の方・要介護者等及びその介護者は無料

企画展

ミュージアムとの創造的対話 04
ラーニング / シェアリング

令和5年11月26日(日)～12月28日(木)

(主催) 創造的対話展実行委員会



小沢剛《あなたが誰かを好きのように、誰もが誰かを好き【劇場版】》いわき芸術文化
交流館アリオス, 2015 photo: 白土 亮次

「教育」という言葉から、みなさんは何を思い浮かべるでしょうか。学校での授業風景や通知表は、恐らくすぐに頭に浮かぶでしょうし、学習塾や習い事の教室も変わらず人気です。社会人を対象とした公民館等での講座もあれば、最近ではオンライン・サロンや動画配信による専門的なセミナーなど、学びの場は多様化しています。ミュージアムもまた、社会教育施設として制度により位置づけられた生涯学習のための施設であり、第二次大戦後の復興を背景に、経済的發展だけではなく、文化的にも豊かな暮らしを実現することを目指す精神の下、整備されてきました。

開館以来50年余りとなる当館も、資料収集や調査研究、展示と並び、学習支援を大きな柱として活動を続けており、また2025年春に開館予定の鳥取県立美術館は、美術を通した学びの機会を充実させることをミッションのひとつとして準備を進めています。

ミュージアムを巡る問いを契機に、国内外の優れたアーティストによる実験的で多彩な表現を展示室の内外に展開させることで、思考を促し、人やモノ、場との対話を重ねながら、その現代的な意味を探ることを試みるシリーズ企画展「ミュージアムとの創造的対話」は、第4回目を迎える今回、この「教育」をテーマに据えました。昨今、知識や情報を「教える」旧来の教育普及から、「学び身につける」ラーニングへと重点がシフトし、作品との出会いをきっかけに、思考を巡らせ、行為や表現に移すプロセスにおける創造性が注目を集めています。とりわけ生成AIが急激な成長を遂げつつある現在は、知の在り方、そして人間の在り方そのものが問われる時代とも言えます。

本展では、現代美術作家が作品展示やワークショップ

プ、住民参加型のプロジェクト等を実施し、いわゆる鑑賞にとどまらない体験やコミュニケーション／ディスカッションなどさまざまな学びの現場を作り出すことを試みます。

アートと社会がいかに関わることができるのか、という問いとともに、各人との違いに基づきながらも、対話や交流、協働といった制作プロセスを發明してきた小沢剛による《あなたが誰かを好きのように、誰もが誰かを好き》は、巨大な彫刻作品でもあり、子どもたちが転がる遊び場でもあり、さらに世界の見知らぬ誰かにカードを届けるための郵便システムでもある、アート作品です。その作品空間を眺める人、走り出す人、絵を描く人、山に登る人、何か別のことを考える人などなど、楽しみ方は人の数だけありそうです。ある種、そこにいる人が全員参加するパフォーマンス作品として—あるいは現代社会の縮図のようにも一見えるかもしれません。

現実の都市空間を劇場と捉えることで演劇の概念を拡張してきた演劇ディレクター／アーティストの高山明(PortB)は、各地から移民・難民として逃れてきた人々が教授となり、講座を開く作品《マクドナルドラジオ大学》を世界各地で展開してきました。今回、鳥取でも新たな講義科目が追加される予定です。

まだ見ぬ学びの場をつくる機会として、またミュージアムの可能性を切り拓く機会として、皆様と展覧会を体験し、共有したいと思います。

(美術振興課 赤井 あずみ)



Port B 《McDonald's Radio University@Frankfurt》2017 photo: Masahiro Hasunuma

■休館日: 12月11日(月)

■観覧料: 一般/700円

(前売・20名様以上の団体・大学生・70歳以上/500円)

※高校生以下・学校教育活動での引率者・障がいのある方・

難病患者の方・要介護者等及びその介護者は無料

関連イベント 会期中には、企画展関連イベントを開催予定です。



企画展

生誕 200 年 根本幽峨 NEMOTO Yūga

—近世鳥取画壇の「黄金時代」最後の華—

令和6年2月10日(土)～3月20日(水・祝)

(主催) 根本展実行委員会



《平家物語 宇治川先陣・弓流図屏風》(左隻・部分) 江戸後期 紙本着色 渡辺美術館蔵

記録も確認できることから、今で言う「若手のホープ」的な存在だったのでしょうか。20代半ば頃の代表作《平家物語宇治川先陣・弓流図屏風》を見る限りでも、この時点で既に熟達した技量を持っていたことがわかります。その後も師とともに江戸藩邸の御用をこなすなど、着々とキャリアを積み上げた幽峨は、ついに安政五(1858)年、藩絵師に召し出されました。時に34歳、世襲によらずその実力を以て藩絵師の任に就いたのです。

彼が手掛けた作品は実にバリエーション豊かで、狩野

派の伝統的な漢画、やまと絵をはじめ、宋から明代の画人の筆法に倣った山水・人物画、浮世絵風の当世風俗、歴史画、肖像画、真景図などにも及びます。また、それらを画題に応じ巧みに画風を使い分けているのです。こうした技術は修業時代の絵画学習によって培われたものなのでしょう。江戸から帰郷した際に「模写の名画が数箱に満ちていた」と伝わるように、主に幽峨の修業時代に制作された絵画資料(京都国立博物館蔵)は千点近くを数えます。この幽峨の絵画学習の過程とその成果については、本展でも詳しくご紹介する予定です。

筆数本を口にはさみ数本を手にして同時に揮毫したと伝わる通り、42歳で早世したにもかかわらず現在でも県東部を中心に数多くの優品を確認することができます。本展では初公開となる作品も交えつつ、修業期から晩年に至るまでの代表作、資料等を一堂に展示し、激動の時代に絵筆で人生を切り開いた稀有な画家の全貌をご覧いただきたいと考えています。

(美術振興課 山田 修平)

南蘋派、円山派、文人画派など、18世紀に登場した日本美術の新たな潮流は、狩野派一辺倒だった画壇に大きな変革をもたらしました。殊に18世紀末から幕末にかけての鳥取では、南蘋派を学んだ土方稲嶺にはじまり、片山楊谷、島田元旦、黒田稻臯、沖一峨ら、新たな美術の動向に敏感に反応し得た実力派・個性派の画家たちが集い、この時代の鳥取を指して「因幡画壇の黄金時代」とも称されるほど豊かな絵画文化が花開きます。そんな時代の真っ只中にあった鳥取城下、「砂田屋」という商家に一人の画家が生を受けました。黄金時代最後期の鳥取藩絵師にして、本展覧会の主人公 根本幽峨(1824-66)です。

幽峨は幼い頃より絵を描くことを好み、18歳頃には江戸に上って鳥取藩絵師 沖一峨に師事していたと考えられます。早くも弘化三(1846)年、22歳で藩の御用を勤めた



《女酒宴の図》江戸後期 絹本着色 個人蔵

- 休館日: 2月12日を除く月曜日、2月13日(火)
 - 観覧料: 一般/700円
(前売・20名様以上の団体・大学生・70歳以上/500円)
※高校生以下・学校教育活動での引率者・障がいのある方・難病患者の方・要介護者等及びその介護者は無料
- 関連イベント 会期中には、企画展関連イベントを開催予定です。



コラム

ダイオウイカの「口と舌」



図1. 漂着したダイオウイカ。全長3.2m。2023年1月15日、岩美町浦富。
【写真：山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館】

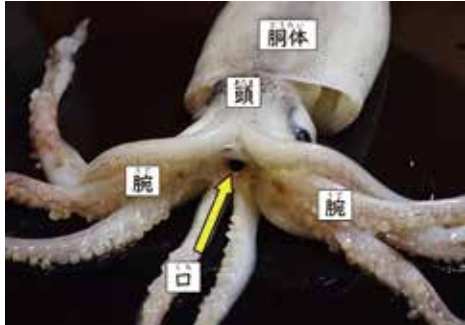


図2. スルメイカの口。

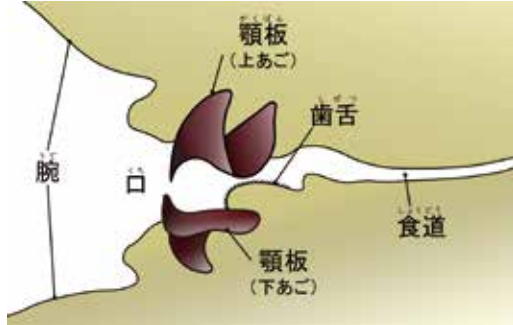


図3. イカの口の構造。

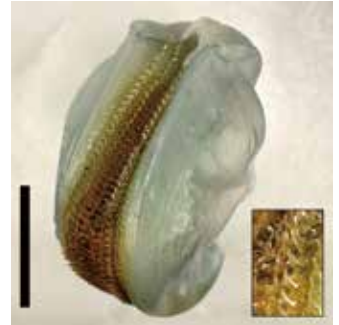


図4. ダイオウイカの歯舌。右下の枠内は歯の拡大。黒色バーは1cm。

ダイオウイカが漂着した！

2023年1月、岩美町浦富の海岸に1匹のダイオウイカが漂着しました(図1)。この動物は謎が多く、また一般からの注目度も高いため、学術目的に加えて教育的な観点からも標本として残すことは重要です。

一方、体が軟らかくて腐りやすく、そしてあまりにも巨大なため、全身を保存することは非常に困難です。今回は、このダイオウイカの「口」を標本として残しました。

イカの口はどこ？

さてみなさんは、イカの口がどこにあるか、ご存じでしょうか？よくイラストで描かれるような、スミを吹き出す筒状の部分は口ではなく「漏斗」という器官です。

本当の口は、腕(ゲソ)の中央にあります(図2)。この黒くて硬い部分は「顎板」といい、鳥のクチバシのような形をしています。カラストンビとも呼ばれ、イカを調理したことのある方はよくご存じかもしれません。

では「舌」はどうでしょうか？顎板の奥にあるのですが、小さくて目立たないため気づく人はあまり多くないと思います。正確には「歯舌」と呼ばれる器官で、平た

く長いリボンのような部分に小さく鋭い歯がびっしりと並んだヤスリのような構造です(図3, 4)。顎板でかじり取ったエサを歯舌で削って細かくしながら消化管へ送り込むのです。なお歯舌ではベルトコンベアーのように次々と新しい歯がうみだされて、歯がすりへってもすぐにまた鋭い歯で食事ができるという仕組みです。

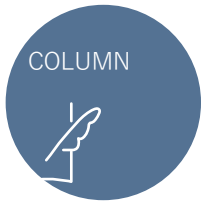
個性的な顎板

顎板は種類ごとに特徴的な形状をしており、種類の識別で重要な役割を果たします(図5)。イルカやオットセイの胃内容物を調べると、しばしばイカやタコが入っていますが、通常その体の大部分は消化液によって激しく損傷しています。しかし硬い顎板は形が残りやすく、それを調べることで、どんな種類のイカやタコが食べられていたのかを知ることができるのです。

このように動物の体のごく一部であっても、その種類の識別や、関係する生きものの生態解明に役立つことがあります。博物館では、そのような活用も視野に入つつ、様々な標本を収集・保管しているのです。
(学芸課 一澤 圭)



図5. 様々なイカの顎板。左からダイオウイカ、ケンサキイカ、スルメイカ、ボウズイカ。いずれも上段が上あご左側面、下段が下あご前面。黒色バーは1cm。



武士は太ると辞任する



池田仲律奉納甲冑(鳥取東照宮蔵)

江戸時代に肥満問題はあったか

肥満症は多くの健康被害を引き起こすことが知られており、その予防には、高い関心が寄せられています。日本人の肥満原因のひとつに、食生活の欧米化があるといわれていますが、欧米化する以前、すなわち江戸時代における日本人と肥満との関係はどのようなものだったのでしょうか。

近代的な統計調査がなかった江戸時代において、数値的な傾向を把握することはできませんが、鳥取藩の記録を紐解くと、武士たちの肥満に関する記事が散見されます。下の表はそれらを集計したものです。

記録にみる鳥取藩士の肥満事情

元禄8(1695)年から天保14(1843)年にかけて、「肥満ニ付」という理由による、鳥取藩士から藩への申請が21件確認できます。大半は肥満によって歩行が困難になったとして、役職の辞退を願う内容です。なかには家老鵜殿上総のように、馬に乗ることができなくなり、代わりに乗物を使用したいという申請も見えます。藩は申請の7割を認め、3割を不許可としていることから、理由としては、ある程度妥当なものと考えていたようです。また申請者の属性をみていくと、藩主を筆頭に、高給取りの藩士が目立つことから、そこに食生活が影響している可能性も否定できません。

甲冑からわかる体格

さて、肥満の歴史を知ることができるのは、古文書ばかりではありません。最後にご紹介するのは、三万石の大名である東館8代藩主池田仲律に関する資料です。仲律は残暑期の参勤交代を避けようと、肥満を理由に出発の繰り上げを願ったことが記録にみえます。仲律には鳥取東照宮に奉納した所用の甲冑が伝わっています。その胴回りは140cm以上あり、鳥取藩3代藩主池田吉泰の甲冑の胴回り105cmと比べると、甲冑の作りが同じではないにしても、格段に大きいことがわかります。つまり仲律の場合、甲冑の存在によって、古文書にいう「肥満」の度合いを知ることさえできるのです。

近世における日本人の体型は、漠然と痩せ型がイメージされると思いますが、鳥取藩の事例からは、「肥満」とされる体型の武士たちが一定数存在した

ことがわかります。近世における肥満の研究は蓄積がないため、他との比較はできませんが、鳥取藩の例をみると、今日の我々と同様に個人的な健康被害や労働力の問題に影響を与えていたことがわかります。

(学芸課 来見田 博基)

※仲律甲冑の情報については坂本敬司氏よりご教示いただきました。

表 肥満を理由に申請を行った藩士一覧

年次	藩士名	役職	俸禄	申請の内容	申請の結果
元禄8(1695)年	村岡半兵衛	御城詰	5人扶持55俵	御城詰の辞任	認可
元禄11(1698)年12月	池田大蔵	着座	3000石	御太刀披露の辞任	認可
元禄15(1702)年10月	佐藤年兵衛	刑罰人		刑罰人御用の辞任	町目付へ転任
元禄16(1703)年7月	鵜殿上総	家老	5000石	馬上の勤めがなり難く、乗物の使用許可願	認可
宝永2(1705)年5月	岸本文右衛門	御普請方御目付	200石	御普請方御目付の辞任	不認可
宝永7(1710)年5月	佐久間甚左衛門		500石	歩行困難により、江戸追掛御番に俸の同道	許可
宝永8(1711)年3月	宮本作左衛門	御城下廻御目付	3人扶持27俵	不行歩につき、下廻御目付の辞任	許可
正徳3(1713)年2月	能勢彦十郎	御城詰	4人扶持30俵	江戸お供勤め難きにつき、御城詰の辞任	不許可
正徳4(1714)年6月	和田九郎三郎	御城詰		歩行お供困難により御城詰の辞任	不許可
享保2(1717)年1月	和田九郎三郎	御城詰		足痛により御城詰の辞任	許可
享保4(1719)年2月	中沢宗知	御茶道	4人扶持50俵	道中での乗馬難儀につき、駕籠の使用許可願	許可
享保9(1724)年2月	松井番右衛門	在御吟味役	6人扶持60俵	在中駆け廻り御用困難につき、在御吟味役の辞任	在元方役へ転任
享保10(1725)年12月	杉原彦右衛門	御城詰	4人扶持	歩行困難により御城詰の辞任	許可
享保13(1728)年6月	山住忠左衛門	御城詰	4人扶持37俵	御供困難につき、御城詰の辞任	許可
享保15(1730)年9月	高瀬作左衛門	御式台御中小姓		歩行困難につき、御式台御中小姓の辞退	許可
享保17(1732)年4月	真野次郎	御城詰	6人扶持50俵	征忬(動忬)差起り難儀につき、御城詰の辞任	不許可
元文5(1740)年11月	田村平八	御料理役	3人扶持	御膳廻り御用難儀につき、御料理役の辞任	不許可
寛延元(1748)年10月	北村乙右衛門	在方御目付		駆け走り方御用難儀につき、在方御目付の辞任	許可
安永3(1774)年4月	益田又録	(御目付)	150石	御道中御行列之外駕籠の使用願	許可
天保8(1837)年1月	池田仲律	東館8代藩主	30000石	残暑の旅行難儀につき、早々の参府許可	不許可
天保14(1843)年7月	福田丹波	証人上	3500石	龍峰寺の下乗所を石壇下より上へ	許可

とっとりデジタルコレクションの「家老日記テキストデータベース」を元に作成

エゾオオカミとタスマニアタイガー

～日豪の絶滅動物から考える人と自然の新しい関係～

Tasmanian Tiger Meets Hokkaido Wolf: Australia & Japan beyond Eco-anxiety



令和5年10月6日(金) 午後1時～2時30分

鳥取県立博物館 講堂

聴講無料・定員150名(申込不要)

問合せ 鳥取県立博物館 学芸課 TEL 0857-26-8044



詳しくは当館HPに掲載のチラシをご覧ください。



オーストラリアからはアデレード大学の学生などがオンラインで参加します。学生はもちろん、どなたでもご参加いただけます。

日本とオーストラリアをオンラインでつないだシンポジウムです。エゾオオカミとタスマニアタイガー(別名: フクロオオカミ)についてのビデオ映像と、エゾオオカミを題材にした手塚治虫のマンガ『ロの旅路』のデジタル版をご覧ください。その後、

オーストラリアの大学生とズームなどを使って話合います。エゾオオカミとタスマニアタイガーはどちらも、19世紀に近代農業の発展をはばむ害獣として駆除され絶滅に至った動物です。持続可能な人と自然の新しい関係について、一緒に考えてみませんか。

(学芸課 川上 靖)

主催: アデレード大学・鳥取県立博物館 / 協力: 手塚プロダクション

※このシンポジウムは、豪州政府外務省の豪日交流基金の研究助成 2022-23 により、手塚プロダクションの協力を得て行われる。

米子市で共同企画展を開催!

令和5年度鳥取県アートミュージアム連携協議会共同企画展
米子市美術館開館40周年記念コレクション展共催

「DRAWING ADDICT!! -ハマる素描」

木山義喬(婦人胸像)制作年不詳 紙・木炭
米子市美術館蔵



「素描」—この言葉は、ものの形象を線描で表したものを指す仏語「デッサン」が明治期に「素描」と翻訳されたことに遡りますが、未完成の走り描きから描き込まれた完成作まで、あるいは覚書等も含め、それが示す範疇は曖昧です。また補足資料としてわずかに紹介されても、展覧会の会場でメインを張る機会は少ない…しかしそれらは日々の鍛錬の痕跡に

加え、作品制作に向かう姿勢や構想の変遷のほか、美術家の関心事や心情の吐露に至るまで、描いた人の思考や内面がダイレクトに描き残された、いわば美術家に最も近い存在。本展では県内各館の所蔵品を中心として素描の多彩な側面をご覧ください。皆様を素描「沼」へと誘います。(美術振興課 友岡 真秀)

令和6年
会期 1月21日(日)～2月18日(日)
午前10時～午後6時(水曜休館)
入館料 330円
会場 米子市美術館(鳥取県米子市中町12)
問合せ TEL 0859-34-2424

鳥取県立博物館ニュース No.36

令和5年(2023年)9月27日発行

編集・発行 鳥取県立博物館

住所 〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地

TEL 0857(26)8042(代)

FAX 0857(26)8041

URL <https://www.pref.tottori.lg.jp/museum/>

E-mail hakubutsukan@pref.tottori.lg.jp



博物館 HP



美術部門

- 入館料: 常設展 / 一般180(150)円 ()内は20名様以上の団体料金
 - 開館時間: 9時～17時(入館は16時30分まで)。一部、19時(入館は18時30分)まで開館の土曜日あり。詳細はお問い合わせください。
 - 休館日: 毎週月曜日(祝日の場合は翌平日が休館日) 国民の祝日の翌日(土、日、祝日の場合を除く) 年末年始(12月29日～1月3日)
- ※具体的な休館日等は、ホームページでご確認ください。



- JR鳥取駅からバスで
 - ①100円バス「くる梨」緑コース「①仁風閣・県立博物館」下車すぐ
 - ②ルーブ麒麟獅子(土・日・祝のみ)「③鳥取城跡」下車すぐ
 - ④砂丘・湖山・箕露方面行「西町」下車、約400m
 - ⑤市内回り岩倉・中河原方面行「わらべ館前」下車、約600m
 - JR鳥取駅からタクシーで…約10分
 - 鳥取砂丘コナン空港から…鳥取駅行連絡バス「西町」下車、約400m
 - お車で…鳥取自動車道・鳥取ICまたは鳥取西ICより約15分
- ※当館駐車場21台駐車可能・満車の場合は県庁北側駐車場【無料】へ

お客様の満足の笑顔へ…
MORRIX
株式会社モリックスジャパン
TEL 0857-23-3641

本社 鳥取市商業町2-03-6
倉吉店 倉吉市南町5-29番地1号エービル1F-3号
<http://www.morrix.co.jp/>

NEX NIPPON EXPRESS

日本通運株式会社 鳥取事業所
TEL 0857-28-0202